

JA全農ウィークリー

2面

和牛の消費拡大を目指し「和牛サミット」開催

(広報・調査部)

6-7面

労働力支援対策室インタビュー
働く人目線で農業労働力支援
自立支援、社会貢献で地域振興
(広報・調査部)



とちぎ米広域集出荷センターの完成を祝い関係者がテープカット(3面)



三重県本部が販売を始めたアマビエをデザインした無洗米「みえのえみ」(8面)



和牛サミットのトークセッションで、「じぶんに、ギュー」のポーズをとる登壇者の皆さん(2面)

2 「東北のお花を飾ろうプロジェクト」で東北の花きPR
(全農東北プロジェクト、フードマーケット事業部)

3 里海米300gパックをノベルティ向けに商品化(岡山県本部)

とちぎ米広域集出荷センター竣工
(栃木県本部)

4 農業機械常設展示・相談会を開催
(神奈川県本部)

グランドチャンピオン賞受賞牛
スペシャルフェアを開催(長崎県本部)

5 JAズームイン(秋田:JA秋田たかのす)

8 「アマビエ」デザインの無洗米パール
精米発売(三重県本部)

ミニのぼりで消費者に地産地消をPR
(岩手県本部)

JAタウンショップ紹介
おらほの逸品館(JA全農あきた)

Web版JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web
限定

和牛の消費拡大を目指し
「和牛サミット」開催(広報・調査部)

全農の食の応援団
「虹のコンキスタドール」のYouTube番組
「全農 presents届け!ファンファーム」
第5話放送!(広報・調査部)



News!



「東北のお花を飾ろうプロジェクト」で東北の花きPR

花束やアレンジメント展示、東北6県産の花一輪プレゼントも

全農東北プロジェクト、フードマーケット事業部

●実施期間
お花の展示…令和2年8月8日(土)～10月末
お花一輪配布…令和2年9月19日(土)～22日(火)の4日間で計200本

●実施場所
みのりカフェエスパル仙台店、グリルみのるエスパル仙台店



「グリルみのる」店内のアレンジメントと一輪挿しの展示

このプロジェクトでは、8月8日から10月末まで、東北6県で生産した花きで作る花束やアレンジメントを、仙台市のエスパル仙台内にある「みのりカフェ」と「グリルみのる」で展示しています。期間中は東北6県の花を2週間ごとに新アレンジメントと入れ替えていきます。

また、9月19～22日は、1日先着50人に東北6県産の花を一輪プレゼントします。ぜひ、店頭で足を運び、東北6県産の花をお楽しみください。

全農東北プロジェクトとフードマーケット事業部は、コロナ禍で需要が減っている花きのPRと生産者への支援のため、株式会社日比谷花壇ホテルメトロポリタン仙台店と連携し、「東北のお花を飾ろうプロジェクト」を実施しています。

News!



和牛の消費拡大を目指し「和牛サミット」開催

消費拡大キャンペーンを発表

広報・調査部



トークセッションに参加した上段左から小川牧場の小川氏、㈱ミヤチクの黒木常務。下段左から㈱ヤザワミートの稲田社長、コープデリ生活協同組合連合会の小川次長

「和牛サミット」では齊藤良樹常務が「和牛には人を元気にする力がある。和牛の魅力を発信し、消費拡大と生産者の経営安定につなげていきたい」とキャンペーンへの思いを述べました。

また、テレビでも活躍する辛坊治郎さんを招き、和牛の生産から流通・加工、販売に携わる業界の方々とトークセッションを行い、それぞれの立場でコロナ禍における和牛を取り巻く現状を語りました。長崎で肥育農業を営む小川博信さんから、和牛の販売価格の低迷により多くの生産者が打撃を受けていることや、おいしさを追求した和牛づくりにかける熱い思いを語っていただきました。参加者は「家庭での消費を伸ばすことが重要」「家庭でもっと和牛を身近に食べてほしい」と話しました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受ける日本の和牛文化を支援するため、全農は8月26日、東京都内で「和牛サミット」を開き、8月29日の「焼肉の日」に向けた消費拡大キャンペーンについて発表しました。



詳しくはこちら
をご覧ください





里海米300gパックをノベルティ向けに商品化

異業種企業のSDGsの一環として活用

岡山県本部



最新ホーローシステムキッチン「トレシア」をバックに「里海米」について説明するタカラスタンダード岡山支店の江頭宏一店長

タカラスタンダード岡山支店が採用した里海米ノベルティ300g(2合)



同協議会は、瀬戸内海のかき殻を土壌改良材として施用して生産されたお米「里海米」の売上金の一部を環境保全活動支援のために積み立てる「瀬戸内かきからアグリ基金」を設立し、「食べてまもる!瀬戸内海」をキャッチフレーズに里海米のコーズマーケティングに取り組んでいます。

商品化した里海米ノベルティを導入したのは、住宅設備機器メーカー大手の「タカラスタンダード岡山支店」です。同社の最新システムキッチン「トレシア」を前面にデザインしたノベルティを、ショールームを訪れた人に配布しています。里海米を炊飯して食べるだけで1円が基金に積み立てられ、里海再生活動に関わることで、お客さまにも大変好評をいただいています。

同協議会には多数の企業からノベルティ商品の取り扱い要望があり、順次商品の製造販売を行う予定です。

岡山県本部が事務局を務める「瀬戸内かきからアグリ推進協議会」は、環境保全活動などSDGs(持続可能な開発目標)の取り組みPRと消費拡大宣伝の一環として、「里海米」の300g入りパックを、お米の流通とは関係の無い異業種企業のノベルティ(景品・記念品)向けに商品化しました。



とちぎ米広域集出荷センター竣工

年間を通した安定出荷に寄与

栃木県本部

完成した大型低温倉庫「とちぎ米広域集出荷センター」



完成を祝い関係者がテープカット



栃木県本部は8月26日、矢板市内で米の大型低温倉庫「とちぎ米広域集出荷センター」の竣工式を執り行いました。

同施設は土地面積2万8146平方メートル、延べ床面積1万2700平方メートル、最大収容力2万1500トンの国内有数の大規模集出荷センターです。全天候積み下ろし可能、全倉庫低温完備、検

査場設置など、フレコンでの集荷需要の高まりや、実需者への安定した品質での通年供給といった課題に対応しています。

竣工式には、高橋武運営各JAの代表理事組合長や行政関係者、施工会社、JA関係者ら約40人が出席し、同施設の円滑な運営を祈願しました。

高橋会長は「年間を通して安定した集出荷ができるよう、JAと一丸となった集出荷体制を構築し、生産者の所得向上につなげたい」と話しました。

News!



農業機械常設展示・相談会を開催

密集・密接避けて対応はじっくりと

神奈川県本部



メーカー社員から説明を受ける来場客



検温器で来場客の体温を測る県本部職員

神奈川県本部は7月28日から8月2日、平塚市の全農かながわ農機・自動車課製品倉庫内で、農業機械の常設展示・相談会を開きました。

これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催中止となった農業機械展示予約会の代替として行われたもので、農機メーカー15社の協力のもと、実機説明と農機の選定についての相談などに対応しました。

会場内の「3密」を避けるため、実施期間を6日間とすることで来場者の分散を図り、感染拡大防止策として受付時の検温やアルコール消毒、マスク着用による入場を徹底しました。

倉庫内にはJAグループ神奈川県推奨型式を含めた22機種152台の農機を展示。来場者は「大きな買い物なので実際に見て確かめたいと思っていた。いつもの展示会よりもじっくり説明が聞けたので納得した上で買えそうだ」と笑顔で話していました。

News!



グランドチャンピオン賞受賞牛スペシャルフェアを開催

直営店オリジナルメニューで提供

長崎県本部



グランドチャンピオン牛豪華五種盛

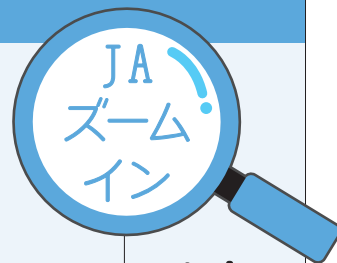


ご主人のお誕生日祝いで来店されたご家族

長崎県本部は直営の「長崎和牛焼肉ぴゅあ」で8月8日から21日まで、第26回「長崎和牛」系統枝肉共励会でグランドチャンピオン賞(G.C.賞)に輝いた平野幸一さんの受賞牛を提供するスペシャルフェアを行いました。

G.C.賞は、共励会で出品された100頭の牛のうち、サシの入り方や光沢から総合的に優れている牛の生産者1人に与えられます。フェア期間中、同店では

G.C.賞受賞牛の「長崎和牛シャトーブリアン」をはじめ、最高級の部位をぜいたくに使用したフェアオリジナルのメニューを提供しました。テレビで宣伝したこともあり、期間中は多くのお客さまに来店いただきました。ご主人のお誕生日祝いとして家族で来店し、「グランドチャンピオン牛豪華五種盛」を注文されたお客さまからは「とろけるやわらかさで大満足。こんなすばらしい牛肉を生産された方の努力は大変だったと思います。これから長崎和牛をどんどんアピールしていきたいです」と話してくださいました。



地元農産物にこだわり直売所管理運営

固定客の確保目指し攻めの販売展開へ

JA秋田たかのすは県北部中央に位置し、北秋田市、上小阿仁村からなります。

地元の新しい農業施設の拠点直売所「JA産直おおだいこ」

平成28年7月27日にオープンした農産物直売所「JA産直おおだいこ」は、市が地元の要望を受け、国道7号



人気イベントの野菜の詰め放題



オープン記念セールで世界一の太鼓を披露

沿いの「道の駅たかのす」地内に整備。指定管理者として同JAが管理運営を行っています。売り場面積は約101平方メートルで、旬の主力商品をメインに地元農産物を使った加工品やスイーツ、手芸工芸品などを販売しています。陳列棚には食べ方や味の特徴などを紹介するポップや新聞で紹介された

商品記事を添えて大々的にPR。「コストコフェア」や「山菜まつり」、「山の芋試食販売会」、「野菜の詰め放題」など旬の味覚をPRする多彩なイベントも開催しています。

**顔の見える農産物で
もっと身近な存在に**

同直売所は、店長はじめ8人の女性スタッフと、「JA産直おおだいこ部会員」と呼ばれる商品を出荷する生産者113人で運営しています。お客さまに安全・安心な商品をお届けするため、部会員も安全管理には万全を期しています。農産物の出荷時には栽培履歴の提出を義務付け、農薬が適正に使用されているかなどを

JA秋田たかのす（秋田県）



概要	令和2年3月31日現在
正組合員数	5548人
准組合員数	8529人
職員数	212人
販売品取扱高	35億3千万円
購買品取扱高	25億9千万円
貯金残高	540億6千万円
長期共済保有高	2033億6千万円
主な農畜産物	キュウリ、エダマメ、ヤマノイモ、セリ、ネギ、比内地鶏

定期的にチェック。加工品は食品衛生法など法令に沿った表示の徹底、異物の混入防止などの安全性確保に努めています。この他、当日商品を出荷した部会員には1日3回、直売所から売り上げ情報や在庫などのデータが携帯電話に送信され、一目で店舗状況が分かるようになっていきます。お客さまが何を目的に来店するのか、求めている商品は何なのかなど消費者のニーズに応えるため、スタッフも部会員と日々情報交換を行っています。

同直売所周辺はここ数年の間に高速道路の整備が進み、交通の流れも大きく変わりました。近隣地域には新しく道の駅も誕生し、観光客に頼らない固定客（市街地からのお客さま）の確保が課題となっています。今後は「待つ販売からお客さまを迎えに行く攻めの販売」をコンセプトに、SNSを活用した情報発信や移動販売による知名度アップ、スタッフのスキルアップにより販売力と集客力をより一層強化します。魅力ある直売所を目指し、地元農産物の提供と地域農業の振興に取り組んでいきます。



生産出荷するJA産直おおだいこ部会員が商品を陳列

労働力支援対策室インタビュー

働く人目線で農業労働力支援
自立支援、社会貢献で地域振興

コロナ禍で農業労働力支援の取り組みが目まぐるしくなっています。足りない労働力を確保するという農業者側の目線から、社会的に困窮する人々を助ける受け皿としての取り組み意義が再評価されているからです。労働力支援の取り組みを支える耕種総合対策部労働力支援対策室に話を聞きました。

【広報・調査部】

全農では、今年4月に専任部署として労働力支援対策室を設置しました。これまでに農業労働力の支援に取り組んでいきます。



働く人目線で始めた労働力支援で集まった人たちが、キャベツの収穫作業を担う

人が集まり出した
働く人目線での募集

農家目線では、不足している労働力が必要な時期に、必要な人数を集めてくれたらいいということになってしまうのですが、それだけでは逆に人が集まりません。農家目線の労働力支援から、働く人目線に少し変えてみたら、人が集まりました。

厚生労働省も注目しているのが大分県のケースです。大分県本部は平成26年から、(株)果野アグリをパートナー企業として取り組みを始めました。農作業受託、いわゆる請負作業です。同社がアルバイトを雇用し、働く人を送りし農家へ送り出す。賃金は日払いです。作業は同社が最初から手取り足取りで教えます。農家は募集、面接、雇用契約、作業を教える、指示することなどから解放されます。

作業のメインは労働集約型で、野菜や果樹に関しては、機械化になじまない収

穫・出荷調整など手作業の部分です。果野アグリは、働く人がちよと働いてみて、自分には合わないな、体力的にも合わないし、あまり面白くないなと思ったら辞めてもらってもいいですよというふうにしています。まずは来ていただいで、1回働いてもらう。続くようであれば、週1回でもいいし、2回でもいいという、緩やかなルールにしています。そうすると、働く人の都合に合わせてくれますし、人も入れ替わりながらも農作業受託は続いていきます。応募してくる人には、長い間働いていない引きこもりの方もいますし、就職氷河期で就職できず日教が経っているとか、今回のコロナ禍で職を失った方もいます。今まで募集の対象になつていなかった人が集まり出しました。

最初の働くきっかけ、途中、休んでいた方の中間就労、これをきっかけに農業でそのまま働いていただいてもいいし、異業種に移つてもらうステップアップのきっかけになつてもいいし、そこはこだわらないので、どんどん利用していただいたらいい

うぐらいの気持ちで、この方法を取り入れていきます。

地域内で協力し合い
共に発展する社会へ

こうした取り組みは引きこもりなど、これまで社会と関わりが薄かった人たちの自立支援ともいえますし、社会貢献として農業がそのきっかけの一つになればと思います。全農は地域振興を掲げています。ベースは農業振興ですが、農業にこだわらず、地域が潤うようなこと、働いて所得を得てもらう地域振興、それをさらに広げて、地方創生に貢献するという旗印を立てています。農業が国と国民のために今何ができるのか。農家目線ではなく、地域の中で農業がどうやって生き残っていくかと考えたとき、農業とは関係ないところとの協力が必要で、異業種の方が休業になったり、失業されたりしたときに、農業で一時的に働いてもらつてもいいと思っています。逆に、農業が暇なときには、異業種の作

業を手伝いに行く。それは他産業でも一緒だと思っています。工業や観光業とかサー

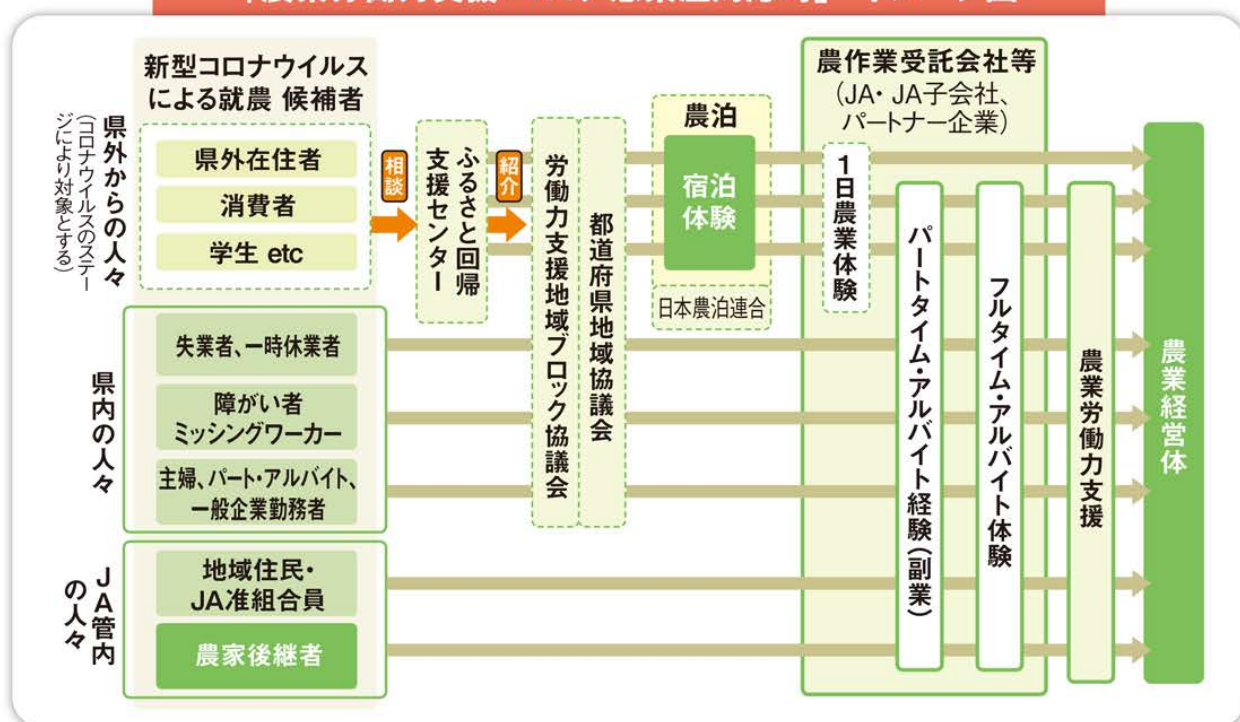
2年、3年働く中で、農家に弟子入りして、新規就農できる人を育ててい

すが、農業と一緒に発展していく、それに貢献できるようなことが今の全農の理想です。

新型コロナウイルス

イルス感染症の影響で現場の方から聞いているのは、菜果野アグリに募集に、空港で勤務している人や、観光業に従事している土産物屋さんとか旅館業の方が、急に増えてきたそうです。農業は一時的にそうした方の受け皿にもなれます。経済回復後も緩やかに農業に関わってくれる人たちが、関係人口を増やしたいと思っています。

「農業労働力支援 コロナ感染症対応時」イメージ図



ればと考えています。菜果野アグリの中でも、1人、2人とそういう方が出てきているようです。1000人に1人か2人でもいいので、最終的には新しい就農者、仲間を増やせるということを期待しています。

他の県でも大分方式を広めるには、菜果野アグリ的なパートナー企業をどうやって開拓するかが課題です。今模索している最中ですが、各県でパートナー企業と連携しているのが13県になります。菜果野アグリは、福岡と佐賀にも営業所を作って、九州ブロックでもう少し広げようとしています。あまり遠いところには行けません。現地を探るか、もしくははわれわれの方で問い合わせがあったり、希望する企業があればそこを紹介して、やりませんかということで動き出しているところです。

ブロック協議会設立で 広域展開へ

その方策の一つとして全農は、各地域に労働力支援のブロック協議会を立ち上げようとしています。今、九州ブロック労働力支援協議会と、中国四国ブロック労働力支援協議会があります。その中で、大分モデルのパートナー企業の開拓を広めていこうとしています。

また労働力支援のノウハウを提供し、ブロック協議会のメンバーの中で広

げていこうと考えています。JA単独ではできないことをいかにサポートできるかです。

大分は少量多品種で、いろいろな作物があります。ただシーズンでいうと夏秋作なので、冬、春がありません。仕事がないと菜果野アグリは人のつなぎとめができません。解決策として例えば、冬・春のキャベツを新しく作付け、県内で作業を平準化しようとしています。ただ、それだけではまだ不十分ですので、ブロックで対応すれば、冬・春の作物を作っているところもあるので、九州北部の中で人の融通をつけられないか。ブロック内であれば高速道路で1時間か1時間半走れば、カバーできます。ブロックで取り組む方が人の調整がつけやすいので、協力し合える機運が高まってきました。

協議会には全農、県経済連、県JA、県中央会、パートナー企業も正規メンバーで入っています。オブザーバーに全中、県庁、農水省（地方農政局）、内閣府内閣官房などに加わっていただいて、いろいろな制度資金の相談などにもワンストップで対応できるように活動しています。

今後、労働力支援対策室ではパートナー企業との連携を進めるとともに、農福連携など、多様な農業労働力支援にも取り組んでいきます。



「アマビエ」デザインの無洗米パール精米発売

無洗米の手軽さも伝える

三重県本部のパールライス販売課は8月4日、疫病退散の願いを込めて、妖怪「アマビエ」デザインの米袋を使用した無洗米、三重県産「みえのえみ」の販売を始めました。【三重県本部】

新型コロナウイルス感染症の拡大が続く中、感染予防啓発と家庭で日常的に使いながら備蓄する商品としての無洗米の認知拡大を目指し考案。パッケージには疫病を鎮めると注目を集める妖怪「アマビエ」を採用し、消費者に笑顔届けたいという思いから三重県産米「みえのえみ」を使用しました。「みえのえみ」は、同県で開発した早生品種で、ふんわりとした食感が特長です。1袋3kg入りで、三重県内のAコープなどで販売しています。

諸岡晃樹担当は「無洗米はお米をとぐ必要がなく、とぎ汁が出ないため環境にも優しいお米です。疫病退散の願いを込めたこの商品を通じて、無洗米の手軽さも知っていただきたいです」と話しています。

アマビエをデザインした
新発売の無洗米「みえのえみ」



ミニのぼりで消費者に地産地消をPR

岩手県内「すき家」全店で岩手県産米を使用

岩手県本部は、ゼンショーホールディングスと連携し、「すき家」で食事をするお客さまに、岩手県内にある「すき家」のご飯に岩手県産米を使用していることを分かりやすく伝えるため、ミニのぼりを作成し店内に配置しました。【岩手県本部】

岩手県産の「ひとめぼれ」は豊かな粘りと甘みがあり、牛肉との相性は抜群です。岩手県内の「すき家」では、県産「ひとめぼれ」を100%使用しています。そこで店内のテーブルやカウンターに、「当店の米は岩手県産米を使用しております」と明記したミニのぼりを7月下旬から設置し、地産地消が分かるようにしています。

岩手県本部はこのような取り組みを通して、地産地消を引き続きPRしていきます。

「岩手県産米を使用」と明記したミニのぼり



JA全農のインターネットショッピングモール
JAタウン ショップ紹介

おらほの逸品館 (JA全農あきた)

自然豊かな秋田県で見事に育った「菌床しいたけ」は、肉厚でプリプリした食感のしいたけが好きな人におすすめしたい逸品です。オススメの食べ方は何といっても「姿焼き」。お好みでしょうゆや塩をふり、あぶってお召し上がりいただくと、うま味が「じゅわあ〜」と染み出て、しいたけの豊かな風味を楽しむことができます。あぶる前にしいたけを塩水に浸すのがコツです。この秋、秋田の菌床生しいたけを味わってみませんか。



菌床生しいたけ Lサイズ(8玉×2P)
……2360円



ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☑ shop@ja-town1.com



『JA全農ウィークリー』の
ツイッターはこちら



私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。